

⑧ 数学グループ運営委員会

本委員会は、20年6月、8月、9月、12月の計4回開催し、数学教育の学士力について検討した。数学は他分野で広く活用されるため、分野共通で最低限求められる能力についてまとめることになり、①方程式、関数などを活用して日常生活に関する数量の意味を確実に理解できる、②数量化・図形化・記号化などの手法で自然・社会現象を論理的にとらえ、客観的に判断できる、③数理モデル化し、問題処理ができるとして整理し、インターネットで数学担当教員（サイバーFD研究員）223名に意見を求めたところ、6名から「日常生活に関係する表現はどの程度関係するか微妙、論理的思考力よりも数学的定式化ではないか、数理モデルは共通能力としては難しい」などの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<数学教育における学士力>

1. 数学のさまざまな概念を習得し、社会生活の中でそれらの意味を的確に理解できる。
2. 数量化・図形化・記号化などの手法により、自然・社会現象を数理的に表現することができる。
3. 数理モデルを活用して、確実に問題の処理ができる。
4. 数学の学習を通じて論理的姿勢を身につけることができる。

その後、詳細な学士力、評価測定などを21年度に検討することを確認した。